next×

5人の表現を巡る～原初の記憶×わたしの物語

N-ART

2026 autumn

2026年10月28日(水)～11月11日(水)

11:00a.m.～5:00p.m.*11/2(月)、9(月)は休館日

ホクト文化ホール1Fギャラリー 380-0928 長野市若里1-1-3

主催 ISHIKAWA地域文化企画室　共催 (一財)長野県文化振興事業団

■山田せつ子ダンスパフォーマンス『花は香炉に打ち薫じ』11月8日(日)14:00～

■ギャラリートーク《作家たちのもの語り》11月8日(日)15:00～16:00

小山利枝子×中村眞美子×中村恭子×山岸月菜×山田せつ子

問合せ先◎ISHIKAWA地域文化企画室　tel.026-217-0608

長い年月、さまざまなジャンルの表現に出会い、いろいろなアーティストやモノづくりの人と関わってきました。表現の持つ熱量や狂気で足元をさらわれたり、背中を押されたりして、生きてきたような気がします。

今回、参加をお願いした5人の女性アーティストは、私にとって、未知のドアを開けてくれたり、その表現にしびれたり、ショックを感じたりした方々です。世代はさまざまですが、尊敬するアーティストたちであり、まだまだ殻を破り続けてほしい、未知の世界を残した表現者たちです。それぞれ長野県にルーツを持つ方々です。

ぜひ皆様に、その表現の中にある謎や魅力、物語を探していただきたいと思います。この展覧会は私にとっても大きな冒険です。会場でお待ちしています。

ISHIKAWA地域文化企画室　石川利江

出品作家■ next+ 小山利枝子(絵画・長野市)/ next+ 中村眞美子(銅版画・長野市)/ 中村恭子(日本画・京都市)/ next 山岸月菜(絵画・茨城県)/ 山田せつ子(ダンス・東京都)

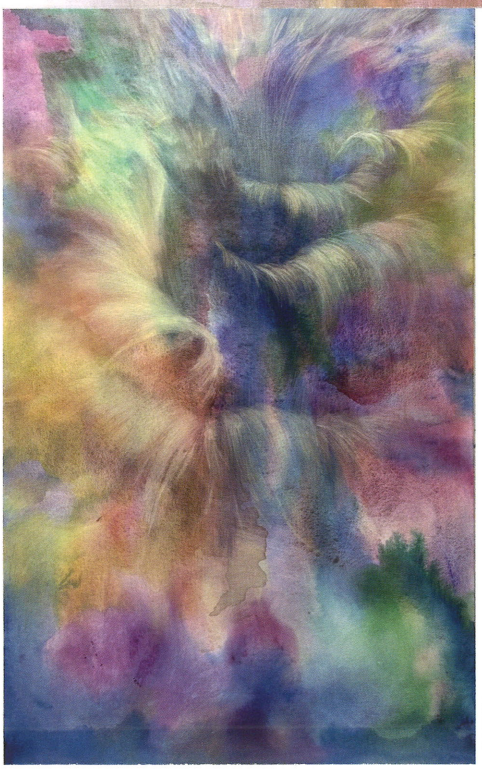
私は部屋に小さな虫が入ってくると情け容赦なく潰してしまう。とはいえその瞬間に命を奪うことの恐ろしさ申し訳なさも感じている。私も巨大な力が振り下ろされた時には小さな虫のように呆気なく死んでしまうのだろう。

この世界に存在するそれぞれに宿る気が遠くなるような多くの生命。その隣には常に死がある。花はそういう生命のあり方の美しい象徴である。ありふれた絵画のモチーフと思われてもいる花を描くということは、むしろ大それた挑戦であると思う。

—— 小山利枝子



「冬の薔薇」
カンバスにアクリル
H22×W28 cm
2026年



「空のことば」
カンバスにアクリル
H131×W81 cm
2026年



小山利枝子
KOYAMA Rieko

1955年 長野県長野市生まれ, 1979年 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業,1994年「VOCA展」上野の森美術館(東京), 2001年「光とその表現展」練馬区立美術館(東京),2002年「彼女たちが創る理由」長野県立信濃美術館(長野), 2004年『種子の秘密』文化庁買い上げ優秀美術作品, 2006年 文化庁海外研修 制度によりオランダ滞在,2008年「ドマーニ明日展」国立新美術館(東京),「絵画 のコスモロジー」多摩美術大学美術館(東京),2009年「花と生命のイメージ展」横須賀美術館(横須賀),2016年「小山利枝子展 光の花」おぶせミュージアム中島千波館(長野),2021年「シンビズム4」上田市立美術館(長野),2022年「小山利枝子展—LIFE BEAUTY ENERGY」池田20世紀美術(静岡), 2023年「next+小山利枝子展 ENERGY OF FLOWERS」ホクト文化ホール(長野), 2024～2026年『もんぜん千年祭』信州善光寺大勧進紫雲閣(長野)その他個展グループ展多数

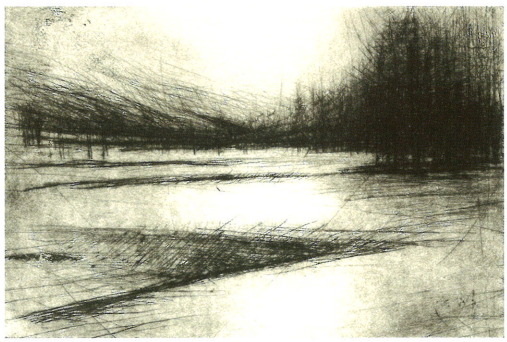
パブリックコレクション/文化庁,横須賀美術館,おぶせミュージアム,上田市立美術館,長野県立美術館



中村眞美子
NAKAMURA Mamiko

1972年 長野県上水内郡信濃町生まれ,1993年 長野美術専門学校造形学科デザインコース卒業,2003年　版画制作開始,山下孝子氏,平山英三氏に師事

主な展覧会／2015年「そこにあるもの—モノクロームの魅力」(小海高原美術館・長野),2016年 個展「草の風景・冬」(秀友画廊・銀座),2018年「シンビズム２」(須坂版画美術館・長野),2023年「特集展示　中村眞美子」(高崎市美術館・群馬),2024年「Re-シンビズム２」(茅野市美術館・長野)



「雪野原」
ドライポイント
20×30cm
2025年



「木々一夜明け」
ドライポイント
60×135cm
2025年

最近、このような展示の機会をいただくたびに〈制作を始めて20年を過ぎた〉という事実を重く感じるようになった。

美術という世界に横道から入ってしまったが故に、なぜ絵を描くのか、良い絵とは何か、美術とは何か、すべてを後から学ぶような感覚がずっと続いている。そしてそれに見合うような作品はなかなかできていない。しかし長く続けてきて明確になってきたこともある。

制作することは、私にとって私が私であることを保つための何かであることに間違いないように思う。

何を表現するべきか、という問いは私の中で優先順位がずいぶん低くなった(それは良くないことかもしれないが)。

今は身近なものたちを丁寧に見て描くことができればそれは作品になりうるのではないかという気がしている。

—— 中村眞美子

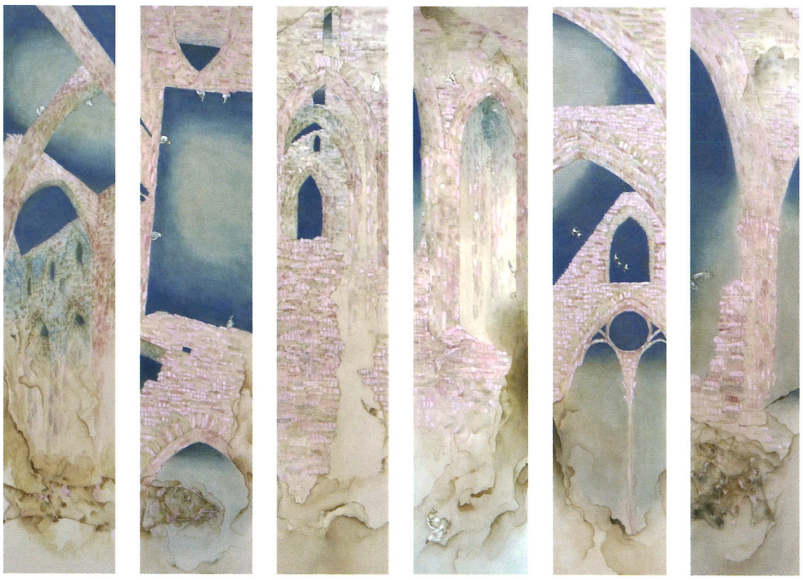


中村恭子
NAKAMURA Kyoko

日本画家。長野県下諏訪町生まれ。2005年に東京藝術大学日本画専攻卒業、2010年に同大学院修了、博士（美術）取得。九州大学、大阪大学などを経て、2026年より京都芸術大学准教授。日本画による作品制作を踏まえて創造性にまつわる諸問題を研究している。最近では日本の古画に見られる空間表現を書き割り構造として捉え、創造のメカニズムを検討するとともに制作に実装することを試みている。主な著書に『TANKURI:創造性を撃つ』（郡司との共著、2018年）、主な展覧会に中村恭子日本画作品展「脱創造する御柱」（諏訪市美術館、2022年）など。ウェブサイト：www.kyokonakamura.jp

何もない住宅街の路地をただ歩くことが制作の下地になっている。集中して「ぼんやり」すること。そうすると、歩いている間に目にしていただろう取り留めのない断片的な物事や考えが、後から効いて来る。一つ一つは特に意味をなさないものでも。目的地を目指すのは苦手で、旅行に行っても住宅地をうろうろするだけなので、それぞれの場所の違いがわからなくなる。どの住宅街でも、それぞれ異なる日常がありながら、しかし同じよう に日常が展開している。だから、初めて来た街の、この曲がり角の先を、知っている感じがする。曲がり角の以前と以後、予期と想起が共立し、互いを脱色する。そこに、知らない私の現実が立ち現れる。そんな絵を構想している。

—— 中村恭子



「浸水する記憶—鳩窟」
絹本彩色　六幅対
各150×30cm
2025年
表装：装雅堂



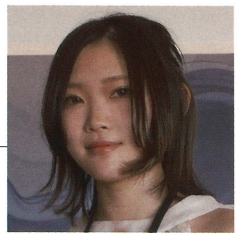
「歯を磨く父」
粉炭
F50
2025年

今、先行きもわからないまま、やりたいことをやり、好きなものを食べ、なんとなく流されるように日常を過ごしている。地に足がついていないような感覚の中で、それでも自分にとって大事にしたいものや、大事な時間がある。私は今、その時間や身の回りにいる人たちを描いている。「個人は最小の社会である」という言葉があるように、自分の身の回りにある小さな出来事や関係性にも、社会のあり方が表れているように思う。だからこそ、まずは自分の身の回りにあるものをちゃんと見て、愛したい。その眼差しを、これからも絵に残していきたい。

—— 山岸月菜



「父を背負う弟」
油彩
F130
2025年



山岸月菜
YAMAGISHI Runa

2025年　金沢美術工芸大学美術工芸学部美術科油画専攻卒業,東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修士課程入学
発表歴・活動歴／2023年　ここをキャンプ地とする。（きんしんギャラリー・金沢）,風の回（石川県立美術館）2024年SOLO EXHIBITION（個展／金沢）,2025年 美浜美術展（福井県立美術館）,枕崎国際展（鹿児島）,全国０・SM公募大賞展（世界堂）,藝祭たまゆら（東京藝術大学）,jabu×三（東京藝術大学）,埼玉プラザノーズ（埼玉市北区役所）,VIVA茨城（取手市アトレ）,2026年 Nexus展（渋谷　ルデコ）,神戸アートマルシェ（神戸メリケンパークホテル）,Nexus展（京都ギャラリー百継）,メタモルフォーシス展（長野 八十二文化財団）
受賞歴／2020年 全国高校総体ポスター 最優秀賞,2024年 光のアート2024 入選（しいのき迎賓館・金沢）,2025年 FACE展2025 U30フロンティア賞（SOMPO美術館）,枕崎国際芸術賞展 入選,アートムーブコンクール 入選,U25artcontest 入賞,美浜美術展 美浜町長賞,神山財団12期生採択,2026年 神戸アートマルシェ入選



山田せつ子
YAMADA Setsuko

ダンサー・コレオグラファー／大学在学中より「天使館」で笠井叡に即興舞踏を学ぶ。独立後ソロダンスを中心に活動。1983年フランスアヴィニョン・シャルトルーズフェスに招待されて以来、国内外での公演多数。1889年ダンスカンパニー枇杷系主宰。2000年～2011年、京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科教授（現・京都芸大）2014年東京大学大学院HISにて非常勤講師、韓国国立芸術大学舞踊科にて、2017客員教授。2019年日本ダンスフォーラム大賞受賞。2024年新作ダンスソロ「いま　ここに　います」@神楽坂セッションハウス、@松本市民芸術館。2025年振付「Jung Logyee I'm Here」韓国国立現代舞踊団委嘱作品@韓国ソウル国立劇場。
著書・ダンスエッセイ『速度ノ花』（五柳書院）東京都在住。



《原初の記憶　わたしの物語に向けて》
言葉で記憶している事を受け止めきれなくなった時から、私のダンスは始まりました。
カラダが密やかに積み重ねて来た、自分や他者をめぐる記憶の数々をひとつひとつ、ほぐし、出合い直していくことが、私が踊って来た時間であったと思います。
今回、四人の方の作品が私の何を呼び起こしてくださるのか、楽しみにその時を待ちたいと思います。

—— 山田せつ子

山田せつ子ダンスパフォーマンス『花は香炉に打ち薫じ』
11月8日(日) 14:00～

